

令和6年度宇都宮大学大学院教育学研究科専門職学位課程

第1期入学試験

教育実践高度化専攻

受験科目 小論文

次の3つの設問から、2つを選択し論述しなさい。なお、解答用紙には、選択した問題が分かるように、問題番号を記しなさい。

【問題 1：学校改革力の領域】

『生徒指導提要』が12年ぶりに改訂され、令和4年12月に公表されました。今回の改訂は、生徒指導の基本的な考え方や取組の方向性等を再整理し、今日的な課題に対応していくために行ったものです。

そこで、児童生徒指導の取組について、今日的な課題を挙げ、その課題に対して具体的な取組例を挙げながら、教員が組織的に対応していく上で、心掛けていくべきことを述べなさい。

【問題 2：授業力の領域】

現行の教育課程においては、学習の基盤となる資質・能力の一つとして、問題発見・解決能力を育成していくことが求められています。問題発見・解決能力を育成するために、どのような学習活動が必要だと考えますか。校種や教科等を想定し、具体的な事例を挙げながら述べなさい。

【問題 3：個への対応力の領域】

種々の困難な条件を抱える児童生徒が学校生活において自身の持てる力を十分に発揮できるように教員ができる支援や工夫、状況設定などについて、児童生徒の状態像と学校種を想定して具体的に述べなさい。

令和6年度宇都宮大学大学院教育学研究科専門職学位課程

第2期入学試験

教育実践高度化専攻

受験科目 小論文

次の3つの設問から、2つを選択し論述しなさい。なお、解答用紙には、選択した問題が分かるように、問題番号を記しなさい。

【問題 1：学校改革力の領域】

令和4年12月に公表された文部科学省の調査（「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果」）によれば、学習面又は行動面で著しい困難を示すとされた児童生徒の割合が小学校・中学校において推定値 8.8%であることが判明しました。また、そのような児童生徒のうち、校内委員会において特別な教育的支援が必要と判断されていない割合が推定値 70.6%、授業時間内に教室以外の場で個別の配慮・支援（通級による指導を除く）を行っていない割合が推定値 81.6%であることも明らかになりました。これらの調査結果を踏まえ、学級担任として、どのようなことを念頭に置いて児童生徒の教育に当たりたいかについて述べなさい。記述に際しては具体的に校種を限定してもかまいません。

【問題 2：授業力の領域】

学習指導要領では、現代的な諸課題に照らして必要となる資質・能力を、それぞれの教科等の役割を明確にしながら、教科等横断的な視点で育んでいくことが求められています。その資質・能力として、例えば、健康・安全・食に関する力、主権者として求められる力、豊かなスポーツライフを実現する力等があげられますが、これらの資質・能力を育てるための授業とはどのようなものですか。考えられる授業について、育てる資質・能力、学校種、学年、教科等を特定して具体的に述べなさい。

【問題 3：個への対応力の領域】

学力に違いがある児童生徒が協働的に学ぶことには、どのような効果があると考えますか。また、その際どのようなことに配慮すべきだと思いますか。それぞれについて、校種を想定して考えを述べなさい。